

2017年度(平成29年度)

事業報告書

学校法人 新島学園

目次

1. 学校法人の概要	2
(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4
2. 事業の概要	
(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	7
(3) 中学校・高等学校	9

1 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

新島学園の名前は新島襄に由来し、「新島襄先生の人格をきん慕し、その遺風を顕彰しキリスト教精神を基本とする徳育を施し、品性高潔な国家社会に有用の人材を育成する」こととしている。

担う使命として、新島襄先生の教育理念に基づき「一国の良心ともいうべき人物を育てる」を掲げ、また、「一年の計には穀を植え、十年の計には木を植え、百年の計にはすべからく人材を養え」との創設者の想いを基としている。

② 教育理念

・中学校・高等学校「教育5原則」

- 1) キリスト教精神を教育の基とする
- 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
- 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

・短期大学「教育モットー」

- 1) 真理：自分の使命を探求すること
- 2) 正義：信念に基づいた行動力を持つこと
- 3) 平和：相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

- 1947年5月 新島学園中学校（男子校）開校
- 1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行
- 1951年3月 学校法人に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更
- 1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする
- 1971年3月 新島学園高等学校、新島学園中学校に改める
- 1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学
- 1986年4月 新島学園法人本部設置
- 2002年4月 高等学校、中学校を併設型に改組
- 2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする
国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置

2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況 (2018年5月1日現在) (単位:人)

学校名	入学定員	収容定員数	現員	摘要
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	115	230	295
	コミュニティ子ども学科	65	130	82
新島学園高等学校	200	600	675	
新島学園中学校	200	600	579	

(5) 役員の概要

(2018年5月1日現在)

定数 理事 12人以内、監事 2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任	再任	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	2008年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	2015年4月1日		短期大学学長
理事	岩間秀彬	常勤	2011年4月1日	2017年4月1日	中学校高等学校校長
理事	石井博明	常勤	2014年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	江守秀夫	非常勤	2011年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	児玉實英	非常勤	2004年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	2009年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	静 朋人	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	八田祥孝	非常勤	2015年4月1日	2017年4月1日	評議員選出
理事	平松譲二	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	福田朋英	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
監事	磯貝光章	非常勤	2017年4月1日	2017年4月1日	
監事	島津文弘	非常勤	2008年9月30日	2016年9月30日	

(6) 評議員の概要

(2018年5月1日現在)

定数 25 人以内

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
小林 俊 哉	法人職員	小林 士 郎	学識経験者
須 川 裕	法人職員	風 岡 優	学識経験者
鈴 木 充	保 護 者	外 所 正 明	学識経験者
本 木 毅	保 護 者	南 都 隆 道	学識経験者
櫻 井 雅 寿	保 護 者	八 田 祥 孝	学識経験者
熊 木 義 隆	卒 業 生	藤 口 光 紀	学識経験者
田 中 美 香	卒 業 生	細 谷 可 祝	学識経験者
湯 川 嘉 昭	卒 業 生	松 本 政 之	学識経験者
丸 岡 え み	卒 業 生	林 信 道	学識経験者
立 見 賢 治	卒 業 生	高 橋 洋 一	学識経験者
天 田 清之助	学識経験者	半 田 充	学識経験者
大 橋 達 久	学識経験者	三 宅 豊	学識経験者
金 子 仁	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2018年5月1日現在) (単位：人)

区 分		短期大学	高等学校	中学校	本 部	合 計
教 員	本 務	19	28	33	0	80
	非常勤	57	14	20	0	91
職 員	本 務	13	4	5	3	25
	兼 務	4	1	1	1	7
合 計		93	47	59	4	203

2 事業の概要

(1) 法人本部

創立 70 周年を迎え、記念事業に位置付けた各種の取り組みを行うとともに、中期経営計画を定める諸事業を実施した。また、新たな第四次中期経営計画の策定に向け、調整と取り纏めを行った。

創立 70 周年記念プロジェクト事業

「創める」 新島学園創立 70 周年記念フェア

- ・ 記念礼拝 11 月 28 日(火)
東京都市大学教授手塚貴晴氏による講演「種を蒔く」
- ・ 記念式典 12 月 2 日(土)
プロモーションビデオ放映
NIJIMAGAKUEN GRANDDESIGN2027 を発信
慶應義塾大学中室牧子准教授による講演
「学力の経済学/教育に科学的根拠を」
- ・ 祝賀会 12 月 2 日(土)
記念式典に引き続き、実施
- ・ イベント 12 月 23 日(土)
軽井沢大賀ホールで中高生徒がクリスマスコンサート実施
12 月 25 日(月)
中高礼拝堂で、短期大学の教員・学生が世界のクリスマス物語実施

「触れる」

- ・ 新島学園の由来となる新島襄精神に触れるボストンツアーの企画を提起

「育む」

- ・ 中高教育の五原則に位置づける「勤労を尊び天然資源の利用を学ぶ」との精神の元、大豆栽培を行い、収穫された大豆を利用して食品化。

「伝える」

- ・ 60 年前高校生有志が自ら企画し、実施した「東日本の援護施設来校」の復活を目指し、オートキャラバン活動を計画。エコラン協議参加として再現。
- ・ ゼミを開設して、車両の構造、駆動、自然環境への影響、走行データの活用等を学びに活かす。

「奏でる」

- ・ 個々で活動している音楽系クラブをまとめ、新島学園フィルハーモニーオーケストラを編成。

「魅せる」

- ・新たなプロモーションビデオを作成。12月2日(土)の記念式典で放映。ホームページにも収録。

「刻む」

- ・創立70周年の歩みを刻むとともに、未来、使命にそびえ立つ新島学園の魅力を紹介。

「象る」

- ・ロゴマークとなる新島学園の「学園章」「中高の校章・略章」「短大の校章」を定める規程を整備

「支える」

- ・インターネットを利用した「ファンドレイジング」を開設

「進む」

- ・生徒／学生主体で企画、立案し実施する諸事業の出現に向け、環境を整備。

方針1 伝統を守る（原点の確認）

① 円滑な運営体制の構築

- ・理事会開催回数を増やし、隔月開催と変更した。
- ・理事、評議員及び教職員を対象とする「研修会」を3回開催。また、情報交換や共通認識の形成を目指し、理事・監事・評議員意見交換会を5月開催。
- ・10年後を見据えた長期ビジョンNIJIMA GAKUEN GRAND DESIGN2027を発表。

② 盤石な財政基盤の構築（持続的発展に向けた財政と効率的な資産運用）

- ・中学校高等学校、短期大学において、生徒、学生の確保に向け、全学を上げて努力をした結果、短大においては学園定数を超えて入学に繋がり、中高においては、設定目標をほぼ達成した。
- ・資金運用に係るコンサルタントと定期的な協議を実施した。他、各種研修会に参加。理事会にコンサルタントを招き、評議員の同席を得て研修を実施した。

③ キャンパス施設整備の整備（安全安心な教育環境確保）

- ・中高第2グラウンド整備に着手し、また、南校舎にエレベーターを設置した。
- ・短大旧館木造校舎耐震対応について、施設整備委員会を設置し、プロポーザル方式にて、設計業者を選定。併せて、耐震強度不足の旧館木造校舎を取壊し。
- ・中高正門前の用地について、売買取得契約締結を行った。

④ 新島ファミリー&コミュニティとの連携

- ・各地区根柢会（6カ所）総会に出席。
- ・70周年記念事業に関連し、同窓会本部と連携を図った。
- ・短大同窓会、父母の会、後援会総会に出席した。
- ・安中市観光機構や安中市子ども議会関連機関と地域連携

⑤ 心身のケア／労務管理

- ・ストレスチェックの継続実施。介護／育児に関する改正法制度に合わせ、不足していた勤務に関する規程を整備。

方針 2 伝統を生かす（新しい価値の創造）

① ブランド力の強化

- ・新島学園のイメージ確立に向け、教職員及び関係者が共有する、これまでの徽章やロゴマークに関する規程を整備。このため、教職員を含め、関係者にも意見照会を実施。
- ・新たな創造の節目となる 70 周年を積極的に捉え、10 のプロジェクトに位置付けた事業を実施した。

方針 3 ガバナンスの充実

① 研修の拡充

- ・事務職員の能力向上に向け、各種研修会に出席。

② 本部企画機能の充実

- ・本部内広報部門に専門の職員を配置。

方針 4 情報発信力の強化

① 広報機能の充実

- ・ブランドディレクターを配置し、本部発信の新聞広告、あるいは、中高・短大のイメージ戦略に積極的に関与し、本学園の統一性を確保

(2) 短期大学

18 歳人口の減少と短期大学進学率の低下という、短期大学を取り巻く厳しい環境の中において、地域社会に必要とされ、選ばれる短大となるために不可欠な活動を抽出し、その展開を図った。

1. 学生や関係者の状況を理解する

- ・学生満足度の計測とその要因分析を図るため、在学生に対してアンケートを実施。両学科とも、高校の先生に進められて本学進学を意識するようになった比率が高いため、今年度も FAXNEWS の月 1 回程度の送信を実施し、この認識を高め、学生募集の幅を広げるため今年度よりコース制を開設した。CC 学科 1 年時ゼミの通年化や授業の少人数化、行事等の見直しを行った結果、満足している学生の割合が 60%と大きく改善することができた。

- 聴き取りの中で、就職先の全貌を明らかにしていない大学がほとんどという状況を嘆く声があったので、今年度から全就職先を公表することに決め、それを高校あてのFAXNEWSで告知した。
 - 就職先企業等へアンケートを送付することを目標として、104 組織に送付し実情の把握に努めた。
 - CD 学科に 4 コース、CC 学科に 3 コースを開設するのに合わせ、特色あるプログラムづくりや、ゼミ等の受け入れ体制を検討した。
2. 短大としての魅力づくり
- マナー向上をはじめとした集団指導や面接指導などの実施したほか、キャリアセンターにキャリアカウンセラー 1 名（パート）を増員した。
 - 学生のニーズに対応した私立大学との指定枠連携を交渉し、駒澤大学に指定枠開設の依頼を行い、経済学に 1 名の推薦指定枠を得ることができた。
 - 安全快適なキャンパスづくりのため、見通しが悪く、出入りの安全が不十分であった西門の門柱と塀を低くした。また木造校舎については耐震性が脆弱なため、取り壊しを行い、代替施設の建設について検討を進めた。
 - 公務員合格者の増加を図るため、合格者体験談を聞かせたり、個別指導を充実したりなどの対策を行った結果、7 名の公務員合格者を出すことができた。
3. 活動内容等の積極的発信による知名度向上
- 就職状況や編入状況を継続的に伝えるため、高校の進路指導宛の通期 FAXNEWS を送信した。
 - ホームページの更新を、できるだけ迅速に行えるように担当等の体制を整備した。
4. 教職員の能力開発とそれに基づく効率的・効果的な業務運営
- 北海道武蔵女子短期大学の視察、高崎商科大学・短大の施設見学や補助金への取り組み状況の聴き取りを行った。高崎商科では本学の補助金申請に有用な情報を得られた。
5. 地域社会との連携、地域貢献
- 安中暦プロジェクトに本学学生 20 人が参加し、年間に渡る活動を行い、制作したカレンダーは完売した。また、草津町との県警協定を締結し、学生が草津町の観光振興について調査し、提案を行った。

- ・ 5月に本学で幼稚園等、実習先との意見交換会を実施した。

(3) 中学校・高等学校

- ・ 中学入試でAO入試を新規導入した。
- ・ Classiを用いたポートフォリオ作成に向け試行準備を開始、電子黒板使用による授業の効率化などICT教材によって新たな授業スタイルの実践と生徒自らが学ぶ習慣を光付ける学習環境整備の施策展開をした。
- ・ 第2グラウンド整備に着手した。
- ・ 「753太ゼミ」活動開始と工場見学・作業体験、自動車部交流会を実施した。南校舎にエレベーターを設置した。

方針 1. キリスト教精神に基づき、他を思いやり、グローバルな視点を持った、たくましい人間の形成。

1. 礼拝と聖書の学びを充実させ、「他を思いやる心」と「感謝の心」を持ち「愛の実践」を目指す生徒の育成。
 - ・ 「保護者のためのキリスト教講座」6回実施
 - ・ 「新島襄の教育のこころ」を今年は開校記念講演で、全員が共有化するため、本井康博教授による開校記念日講演会を実施。
 - ・ 特別伝導礼拝実施
 - ・ イースター礼拝
 - ・ 新島襄召天記念礼拝
 - ・ 中学1年で冊子『新島襄』を通じ、高校1年では『群馬のキリスト者』を用いて、新島襄、湯浅治郎、柏木義円について学び、建学の精神を再確認した。
2. グローバルな視点を持つ生徒の育成
 - ・ 白熱教室の実施
 - ・ エンパワーメントプログラムの実施
 - ・ アジア学院ワークキャンプ実施
3. たくましい人間の形成
 - ・ 学力向上グループによる学習指導開始
 - ・ 英検受験指導
 - ・ 漢検受験指導
 - ・ 中学部内でのスコラ手帳使用指導
 - ・ 高校1年、2年で全員受験の小論文添削を計11回実施

方針2. 生徒募集目標達成に、全員参加で臨む。

1. 生徒募集の仕組み構築

- 中学入試では AO 選抜の新規導入
- 安中地区学校説明会を保護者・同窓生の協力を得て実施。保護者が中心となり 200 名以上の参加を得た。

3. 入試戦略と施策の構築

- ホームページ、パンフレット、リーフレット等の広報ツールの改定充実を行った。
- 中学入試で第 1 回 AO 選抜を実施した。
- AO 選抜合格者には、『校長からの特別宿題』を出題。
題は『校長先生に一番素敵あなたを教えてください』（自己表現）
- 英語の小学生講座を実施した。

方針3. グローバル化を生き抜く人間力育成と学力の向上

1. グローバル化を生き抜く人間力育成と学力の向上

- 2泊3日のグローバルイングリッシュキャンプ in 軽井沢を実施。欧米だけでなく、アジア・アフリカからの留学生も指導に入り、成果が得られた。中学3年生から高校2年生、計19名参加。
- 短期・長期を含めると、1年間で5名の外国人留学生、4名の外国人体験通学生徒を受け入れた。

2. 2020年大学入試改革等への対応

- チーム寒梅では、様々なテーマによるスタディツアーやワークショップを9回実施。
- 『中学学力推移調査』（ベネッセ）を導入した（年3回）。中高一貫の指標を用いた進路指導を実施した。
- Classi も用いたポートフォリオ作成に向け試行・準備を実施。2018年度新高校1年生で本格始動を実現。

3. 理系の強化

- 「753 太ゼミ」活動開始。特別講座、工場見学・作業体験、慶應高校自動車部との交流会などを実施。
- 理科特別授業において羽のない飛行機の実演を行った。
- 大豆栽培から醤油の醸造までを体験した。

4. 進路指導の充実

- 4月28日進路講演会「進学に関わるお金の話」を実施。高校全学年と希望保護者123名参加。
- 高校1年生を対象に県内国公立大学5校の見学行事を実施。

5. 教育環境、教育施設の充実

- ・講義室Ⅲと学習室Ⅰに電子黒板を新たに導入し、現在 3 台が稼働している。
- ・プログラミング学習として、アソビズム社の支援で中学 1 年生と学園祭、オープンスクール来校者を対象にプログラミング学習を実施した。
- ・第 2 グラウンド整備に着手した。

方針 4. 教職員の 7 つの能力の育成と『やりがい』の発見による力量の発揮

1. 教職員の力量発揮素地作り

- ・新教務センター棟の完成できめ細かな相談環境が実現できた。
- ・学習室Ⅰ・Ⅱ及びラーニング commons の整備により、生徒の自主学習支援場所を確保した。

2. 教職員の「やりがい」の醸成

- ・学校長が委員を務める私学教科研修へも参加、特に反転授業・アクティブラーニング研修へは積極的に参加。
- ・ユニバーサルデザイン研究の一環として全教員対象に授業の運営と特別支援研修を実施した。早稲田大学高橋教授を講師に招いた。

5. 教室内の教育環境の整備

- ・西校舎に Wi-Fi を整備
- ・南校舎にエレベーターを敷設

方針 5. 関係者、関係機関との信頼関係を高め、助言、協力、支援を学園の発展に繋げる。

1. 創立 70 周年記念事業の計画・実施

- ・礼拝堂の十字架塔のライトアップ開始

2. PTA・同窓会・関連機関・地域社会との連携強化

- ・各種説明会、オープンスクールでアンケート実施
- ・「いじめフォーラム」へ生徒会代表が参加
- ・安中市「子ども議会」に参加（中学 3 年生 5 名）
- ・「安中市いじめ防止フォーラム」に生徒会長をはじめ役員 3 名が参加

方針 6. 安心・安全な環境整備

1. 安心・安全な教育環境の整備

- ・組織的にこまめな対応で「いじめ」「行き過ぎた指導」等へ対応。
- ・校内組織の整備など、教育相談の体制の充実を図った。